

# 大学生の一日

湯浅 真澄

中国の大学で一年間過ごして、中国人大学生の様子を見ていると、日本の大学生とはかなり異なる生活をしていることが分かります。今回は中国の大学生の一日を覗いてみましょう。

朝起きて、朝食は外でおかゆと油条（揚げパン）を一緒に食べたり、餅子と呼ばれるパンや薄く焼いた小麦粉の皮に野菜やハムなどを巻いたもの等を買って食べたりします。教室に行く途中で買って食べ歩きしたり、授業前に食べたりします。

授業の開始は日本よりも早く、8時半頃から授業が始まります。

昼は食堂で食べます。校内にいくつか食堂があり、ご飯もの、粉ものからハンバーガーまでたくさんの種類があるので、飽きることはありません。

午前の授業が終わると、寮に帰って昼寝をします。中国には昼寝の習慣がありますので、午後の授業もそれに合わせて2時半頃から始まります。その代わりに授業が朝早く始まるので、実質の授業時間は日本の大学とあまり変わらない気がします。

日本の大学生は午後授業のないときにバイトをするイメージがありますが、中国の大学生は一般的にバイトをしません。するとしても、夏休みや冬休みなどの長期休みにします。

また、図書館や教室などの学校の設備がかなり遅くまで開いています。ですので、夜遅くまで図書館で勉強したり、サークル活動に打ち込んだりすることができます。

友達の様子を見ていると、スマホで動画を見たり、音楽を聴いたり、ゲームをしたりするなど、空いた時間をスマホで遊んで過ごす学生もいます。これは、現代の日本の大学生と同じですね。

ここ太原市を含む中国の北側の大学寮には、一般的にシャワーがありません。

シャワーは澡堂と呼ばれる大学内のシャワー専用の棟に行って浴びます。湯船につかる習慣自体がなく、シャワーも毎日はいしません。ですので、寝る前に寮の洗面所でたらいに水を汲み、顔や手足を洗ってから寝ます。

寮には門限と消灯時間があり、Wi-Fi も切れるため、夜な夜なケータイやパソコンをいじることはできません。夜遅くまで勉強したいときは、ルームメイト

の睡眠を邪魔しないようにテーブルランプを付けて、静かに勉強します。

中国人の大学生は日本の大学生と比較してよく勉強している印象を受けます。課題やテストも多いようです。中国では、ほとんどの大学生が大学院への進学を希望しているため、大学生活は大学院への受験勉強期間でもあるのです。また、ほぼ全寮制であり、自炊はせず食堂で食事を取るため、日本の下宿大学生と違って通学時間、家事に費やす時間が少ないです。勉強に集中しやすい環境が整っています。学友が周りにはいる環境で寝食を共にするため、勉強する意識も高まります。

しかし、6人部屋や8人部屋の寮生活にはプライベートは全く無く、朝から晩まで大学の管轄下におかれるという不自由さもあります。

もちろん大学生の本業は勉強ですから、バイトやインターンシップなどをあまりやらずに勉強に専念することはいいことだと思います。しかし、社会に出る一歩手前の大学時代に社会に出て経験を積むことをせず、親のお金に頼っているのは、社会に出てからが大変だ、という意見もあります。



教室。日本とほぼ変わりませんが、エアコンはありません。冬は寒くて夏は暑く、中国人の友達もたまに文句を言っていますが、心のどこかで「しょうがない」と思っているような節もあります。